令和六年度　岡山学芸館高等学校　選抜一期入試【一月二十六日】　問題（国語）

注意①　解答はすべて別紙の解答用紙に記入しなさい。
注意②　字数が指定されている設問では、「、」や「。」も一ます使いなさい。

1

大正時代、帝国ホテルの支配人として招かれた林愛作は、世界的建築家のライトに新館の設計を依頼する。完璧主義のライトは、石工たちと衝突し、もめごとを引き起こす。その中、妻の父長浜佐一郎がやってきて「何のために支配人になったのか」と愛作に問いかけ帰って行った。これを読んで、①～⑥に答えなさい。

「支配人」

愛作が足を止めると、源太は力強く言った。

「支配人、俺はやるよ。何度、やり直しさせられても、やり遂げる。先々、俺の息子が、帝国ホテルの大谷石は、うちの父ちゃんが彫ったんだぞって、自慢できるように」

背後の石工たちも、俺も俺もと続く。その無垢な純粋さに、ⓕとうとう涙がこぼれた。

出典　植松三十里『帝国ホテル建築物語』

（注）石工…石材を加工したりそれで何かを組みたてたりする人のこと。
遠藤新…ライトの助手。　スダレ煉瓦…多数の細い溝があるタイル。
大谷石…建材として使われる石材。
未来永劫…これから先、果てしなく続く長い年月。
大倉組…帝国ホテルの工事を請け負っている組織。大倉喜八郎がその組織の重役。
粂馬…大倉喜八郎の娘むこ。

① ――の部分ⓑ・ⓔの漢字の読みを書きなさい。

② 「ⓐ覚悟か」とあるが、ここでの「覚悟」の内容について説明した次の文の□に入れるのに適当なことばを、「ライト館」ということばを使って、二十字以内で書きなさい。

ライトを□という覚悟。

③ 「ⓒこんなホテルはニューヨークにもパリにも、アジアのどの町にもない」とあるが、この様子を表す四字熟語として最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア　千載一遇　イ　完全無欠　ウ　空前絶後　エ　唯一無二

④ 「ⓓそして話し始めた」とあるが、話し終わったときの愛作の心情を説明したものとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア　ライトのようには場の空気を変えることはできなかったが、自分の意志は変わらないのだと改めて心に誓っている。
イ　後ろまで聞こえるように声を張って話したが、気が高ぶり、涙がこみ上げそうになったことを恥ずかしく思っている。
ウ　拳を振りかざして叫んだライトとは対照的に、とつとつとした口調になったが、冷静に話せた自分に満足している。
エ　自分では力強く話したつもりだが、反応がなかったことに悲嘆し、自分ひとりでやるしかないと孤独に陥っている。

⑤ 「ⓕとうとう涙がこぼれた」とあるが、このときの愛作の涙の理由を説明した次の文の□に入れるのに適当なことばを、「思い」「石工」ということばを使って、四十字以内で書きなさい。

□ことで、涙がこらえきれなくなったから。

⑥ この文章の表現の特徴について説明したものとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア　「君が腹でも切ればいいんだ」という表現は、佐一郎が肝のすわった人物であることを示すとともに、冗談を言うことで、愛作に問題を深刻に捉えすぎないよう暗に促している。
イ　「愛作は手にしていた図面を広げた」という表現は、今日の作業に入る前に変更点を確認しておこうとする、愛作の支配人としての真面目な仕事ぶりを読者に伝えている。
ウ　「黄色いスダレ煉瓦」「青味がかった大谷石」という表現は、ライト館が、日本では使用されることのない材料で造られる建物であり、西洋人向けであることを表現している。
エ　「胸を張って言った」という表現は、愛作のことばを受け止め、この件は自分がなんとかしてみせるから任せてくれ、というライトの自信に満ちあふれる様子を表している。

もういちど、つぶやいた。

「ⓐ覚悟か」

ついさっき舅の長浜佐一郎から指摘された。

「君は及び腰だ。覚悟が定まっていない。それじゃ誰もついてこない。ライトさんを信頼するなら、信じきればいい。それで駄目だったら、君が腹でも切ればいいんだ」

翌朝、愛作は早めに出勤すると、ひとりで図面をⓑ携えて、ライト館の現場に行ってみた。

（中略）

愛作は手にしていた図面を広げた。アメリカでライトが考え、遠藤新が清書してきた全体図だ。すでに、あちこち変更されてはいるが、全体の印象は変わらないはずだった。それを見つめてから、広大な敷地に目を向け、ライト館が建った様子を思い描いた。

黄色いスダレ煉瓦と、青味がかった大谷石でできた壮麗な建物。車寄せには黒塗りの輸入車が次々と入ってくる。ドアマンが笑顔で車のドアを開け、西洋人や日本人の客を迎える。別の客たちが、空いた車に乗り込んで、また走り去っていく。

今、愛作が立っている辺りまで、歩いてくる西洋人もいる。立ち止まって、建物を振り返り、驚嘆の声を上げる。

――なんて美しいんだ。ⓒこんなホテルはニューヨークにもパリにも、アジアのどの町にもない――

その様子が、ありありと脳裏に浮かんだ。昨夜の舅の言葉も耳の奥でよみがえる。

「素晴らしいホテルがあったという記憶は、人の心に刻まれる。それが未来永劫、帝国ホテルの名を高めるだろう」

愛作は図面を丸め直した。迷いを捨て、なんとしても、ここにライト館を建てると決意した。そのために支配人を引き受けたのだから。

そして本館に戻り、ライトに伝えた。

――職人たちの腰が引けていて、大倉組も手を引くと言っている。けれど、私はなんとしても完成させる――

ライトは一瞬、驚いたものの、すぐに愛作の覚悟を理解し、胸を張って言った。

――明日、みんなを集めてくれ。私が話をする。重役も大倉組の奴らも石工たちも、全員に話して聞かせて、やる気を高めよう――

翌日、愛作は作業を中断させ、全員を動力室前に集めた。大倉喜八郎も粂馬も姿を見せた。ライトは高く組んだ足場に登り、拳を握り振りかざして大声で叫んだ。

――私は帝国ホテルを建てるために、故国から遠く離れたこの地に、はるばるやってきたのだッ。何がなんでも建てるんだッ。手を引くなど許さない――

同じ声量で新が訳すと、男たちの顔が引き締まった。愛作は、これが佐一郎の言う勢いなのだと気づいた。

ライトの演説が終わってから、愛作は入れ替わりに足場に登った。ⓓそして話し始めた。後ろまで聞こえるように声は張ったが、とつとつとした口調になった。

「ここに建つホテルが、世界中から来る宿泊客の賞賛を浴びるのは疑いない。それは日本が世界の一等国になる証だ。日本の未来を象徴する建物だ。僕たちは日本人の希望の星を造るんだ。それを設計できるのはフランク・ロイド・ライトただひとり。みんな、この工事に関わることを誇りにして、力を尽くして働いて欲しい。きっと、きっと、子供や孫たちにまで、自慢できる仕事になる」

ⓔ万感の思いを込めて話すうちに、気が高ぶって、涙がこみ上げそうになる。なんとかこらえて話を締めくくった。

話し終えた時には、場が静まり返っていた。やはり自分には、勢いづけることなど無理なのだと思った。それでも何がなんでも遂行すると、改めて決意を固めた。

足場から降りた時だった。石工の源太が駆け寄ってきた。

受験番号
算用数字

2

次の文章は、社会学者であり、民俗学者でもある鳥越皓之（とりごえひろゆき）が書いた文章である。これを読んで、①～⑥に答えなさい。

村というコミュニティにおいては、お ⓐタガいに協力をする仕事が多いことは容易に想像できるでしょう。

それは生産維持と生活維持というふたつの目的とかかわっています。生産維持の仕事の多くは共同労働のかたちをとります。農業や漁業、林業は、自然を相手にする仕事であるからです。すでに見たように、たとえ田畑や山林などの土地が個人所有であっても、自然のシステムは個人所有されていません。そのため共同で判断し、共同で管理・労働せざるを得ないわけです。先に田畑に不可欠な水について説明をしましたので、この指摘に納得していただけるかと思います。とはいえ話を ア明確にするために、生態学の知識を使って少し イ論理的に述べておきましょう。農業などの「自然のシステム」は生態系（生態システム）であるからです。

定義なので少しむずかしい表現になりますが、「ある一定の地域空間に存在する生物とそれをとりまく非生物的環境要因（物理的・科学的な要因）をまとめて、そこに一定程度の閉じたシステムが存在する」とみなした場合、それを生態系と呼びます。たとえば池でいうと、そこには魚や藻という生物と、水や泥や熱などという非生物的要因とが池というかたちで、ある程度閉じたシステムとして存在している生態系になります。

ここからがポイントですが、この生態系がもつ働きのうち、「人びとに利益をもたらすもの」を「生態系サービス」と呼びます。農民はこの「生態系サービス」を最大限にする（できるだけ多くの収穫を得る）必要があります。たとえば、自分の田んぼのすぐ横に、八幡様（はちまんさま）の杜（もり）があって、そこの高い木々が田んぼに影を落としていたら、イネの光合成に支障を来（きた）して、生態系サービスの効率が落ちます。そこで、この木を伐（き）ってもらう必要があります。ただ八幡様の木を伐るとなると、これはもう個人の判断ではできないことで、村の判断となります。

その判断の目安は、生態系サービスのトレードオフをどうするかということになります。そもそも生態系サービスには、ひとつの生態系サービスを向上させると、①他の生態系サービスも向上するという「相乗効果」の側面と、②他の生態系サービスが劣化するという「トレードオフ」の側面があります。この場合は、「トレードオフ」の関係ですから、解決には丁寧な話し合いが求められます。

国連が主導して行われた「生態系評価」というものがあり、そこでは、生態系サービスについて、四つの分類がなされています。すなわち、供給サービス（食料品、衣服の繊維、燃料など）、調整サービス（水質浄化、有機性 ⓑハイキ物の分解など）、文化的サービス（精神的満足、宗教など）、基盤サービス（光合成による酸素の生成、土壌形成、水循環など）です。

この分類にしたがうと、先ほどの ⓒ八幡様の木の問題は、供給サービス（食料）と文化的サービス（宗教）とのトレードオフです。

むずかしいのは、ⓓ村での話し合いは、同種のサービスのトレードオフではなくて、この例のようにしばしば異なる種類のサービスのトレードオフの問題となるところです。そのために村が ウ大幅に介入するとともに、丁寧な話し合いが必要なことに気がつくでしょう。

各村には、この話し合いを進める基準として、研究者がローカル・ルールと呼んでいる地元のルールがあります。このルールは国がつくった法律に反しないようにしているのですが、生活を第一においていますから、エ実際には反することがあります。その場合は、内々に自分たちのルールのほうを優先させます。

さて、先ほどの話に戻りますと、八幡様の木を伐ることは、村のルールでは原則として禁じられています。これは日本のほとんどの農村に存在するルールで、これによって、わが国の神社林が原生林に近いかたちで守られている場所もあるのです。

たしかに、神さまが宿るところなので、神社林を伐ることはよくないことではあります。ただ、いま〝原則として〟という用語を加えたように、一〇〇年単位でみると、案外よく伐られています。したがって村での話し合いは、原則を守ろうとする正論派と、生きていくためにはしょうがないという現実派との論争になるわけです。

こんな議論は、明確な基準が成立しませんから、全員で賛否を決するか、村の中心の人（江戸時代だと名主など）が、「それでは」といって最後に決着をつけます。後にしこりが残らないよう、後者（名主などのリーダーの判断）を選ぶことが多かったようです。

（中略）

このように農林漁業という自然システムと深くかかわっている仕事においては、すべての事柄において、個人独自の判断はできなくて、関係者との話し合いが不可欠になっていきます。村というのはこのようなシステムなのです。

出典　鳥越皓之『村の社会学―日本の伝統的な人づきあいに学ぶ』

（注）コミュニティ…共同体。

すでに見たように・先に…本書『村の社会学』のこれより前の部分を指す。

八幡様…日本で信仰される神様で、応神（おうじん）天皇のこととされている。全国で広くまつられている。

国連…国際連合。第二次大戦後に国際平和と安全、協力のために設立された。

① ――の部分ⓐ・ⓑを漢字に直して楷書で書きなさい。

② ═══の部分ア～エのうち品詞の異なるものはどれですか。一つ答えなさい。

③ この文章における「村」について説明した次の文の［X］、［Y］に入れるのに適当なことばを、［X］は四字、［Y］は八字で文章中から抜き出して書きなさい。

農林漁業に従事する村では、自然システムを［X］できるわけではないので、［Y］で仕事を行うことが必要である。

④ 「ⓒ八幡様の木の問題」とあるが、この問題について説明したものとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア　八幡様の木を伐り自分の田んぼの生産を維持したい反面、八幡様の木を守り村の生活を維持したいと願う個人的葛藤。

イ　食料をつくり出す基盤サービスと、八幡様への信仰という調整サービスとの間の、異種サービスのトレードオフ問題。

ウ　八幡様の木を伐ると文化的サービスの劣化を招くという正論派と、生きるためにはやむを得ないとする現実派との論争。

エ　国がつくった法律に反しないようにするか、生活を第一に考えて自分たちのローカル・ルールを優先するかという問題。

⑤ 「ⓓ村での話し合い」は、どのように行われていましたか。次の文の［　　］に入れるのに適当なことばを、本文中の語句を使って、三十字以内で書きなさい。

村人全員で賛否を決する場合もあるが、多くは、［　　］という方法で行われていた。

⑥ 本文の内容を説明したものとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア　魚や藻などの生物と、水や泥といった非生物的要因とでなる池は、村人に開かれたシステムとして存在する生態系であると言える。

イ　ほとんどの農村では、神の宿る神社林の伐採を禁じており、神社林は守られてきたが、それは絶対のルールではなかった。

ウ　生態系サービスには酸素や水の循環といった、生活に不可欠なものと、精神的満足といった優先度の低いものがある。

エ　同種の生態系サービス同士についてはトレードオフの関係になることがないので、村の介入について考える必要もない。

3

次の文章は、言語学者である、山口仲美が、松尾芭蕉『おくのほそ道』の「立石寺」（現代の読みは「りっしゃくじ」）の章段について、実際にその地を訪れて書いた文章である。これを読んで、①～④に答えなさい。

受験番号
算用数字

碑には、『おくのほそ道』の立石寺の章段で詠んだ「**閑さや 岩にしみ入 蟬の声**」（A）という俳句が刻んである。それを眺めているうちに、ふと気になりだした。「岩にしみ入」ように感じられる蟬の声とは、どんな声なのか？　凜と張りつめた杉木立に、夏なら蟬時雨が降っている。芭蕉の頃は、蟬の声以外は何も聞こえぬ静寂が、この辺りを支配していたのだ。私は、ただ文字の上で「閑さや」の句を味わっていたときは、清閑幽邃の趣を表現しているのであるから、何蟬の声でもいいように思っていたのです。

けれども、実際に立石寺に身を置いてみると、たとえばオーシーツクツクなどと聞こえるツクツクボウシの声では岩に沁み入る感じがしないし、ミーンミンミンと鳴くミンミンゼミの声では、沁み入るどころか岩に跳ね返っている感じです。カナカナカナというヒグラシの声では、弱すぎる。どの種類の蟬の声かは、重要な鑑賞のポイントであることに気づかされました。アブラゼミの声だと言い出したのは、歌人の斎藤茂吉でした。それを否定して、ニイニイゼミの声だと主張したのは、ドイツ文学者で評論家の小宮豊隆（『芭蕉の研究』）。論争になりましたが、斎藤茂吉の実地踏査で決着がつきました。その季節に立石寺で鳴くのは、ニイニイゼミだったのです。茂吉は、アブラゼミ説を撤回しました。（「立石寺の蟬」）。

（中略）

では、芭蕉が聞いた蟬の声は一匹なのか、複数なのか？　国文学者の麻生磯次『「奥の細道」を読む』は、「満山蟬時雨というような騒々しいものではなかったであろう」と述べていますが、かといって一匹ではあるまい。ニイニイゼミの声は、比較的小さい。全山岩石という立石寺で、「岩にしみ入」感じがするには、やはり相当数の蟬が「チージー」と鳴いていないといけない。芭蕉と同じ場所に立ってみると、紀行文の一語一語が現実味を帯びて迫ってくる。紀行文は、その土地に自ら赴いてみた時に最も輝きを増すんですね。

私は、せみ塚で存分に山中の涼気を浴びた後、奥の院まで行こうと立ち上がりました。でも、ハイヒールが足を締め付ける。奥の院までの道のりを人に尋ねると、今まで来た道の二倍も石段を上らねばならないと言うではありませんか。私は諦めました。案内図によれば、途中で右に折れると、性相院をはじめとする幾つかの院があり、奇岩の洞穴をくぐり抜ける道がある。左に折れると、岩上に立つ開山堂などの御堂を通り、鎖にすがって岩を這い登る道がある。山の麓から奥の院に達するには、実際は大変な道のりなのです。なのに、『おくのほそ道』は、たったの七〇字余で、こう記す。

岩に巌を重て山とし、松柏年旧、土石老て苔滑に、岩上の院々扉を閉て、物の音きこえず。岸をめぐり、岩を這て、仏閣を拝し、佳景寂寞として心すみ行のみおぼゆ。

そして、この直後に、

閑さや　岩にしみ入　蟬の声

これで立石寺の章段は終わりです。奥の院に至るまでの難儀な道のりは、まことに簡潔に記され、最後の句だけが、目立つのです。ははーん、芭蕉は最後の「閑さや」の句を、前面に迫り出させるために、奥の院に向かって歩く苦しい道中をことさらに簡略化している！　「閑さや」の句が最大の効果を上げるような材料だけを選び抜いて、道中の様子を記している！　『おくのほそ道』の文章構成の巧みさに気づいた瞬間です。

その場合、クローズアップされた俳句がぴしりと決まっている見事なものでなければ、台無しです。芭蕉は、俳句を何回も練り直してぴたっと決まるまで推敲を重ねています。最初は「**山寺や 石にしみつく 蟬の声**（B）」。「山寺」「石」の語のせいで、ややスケールの小さい感じのする句ですね。次には、「**さびしさや 岩にしみ込む 蟬の声**（C）」としています。「さびしさや」と言われると、句のもつ味わいが限定されてしまいます。「しみ込む」も、水のような淡いものが連想されてしまう。ここは、「蟬の声」という生き物の声なのですから、それを際立たせたい。こうして、「閑さや 岩にしみ入 蟬の声」の句になっていった。推敲に推敲を重ねて作られた句は、スケールの大きい静寂な空間に身を置いたような感じがする句になっている。一語たりとも他の語に置き換えることを許さない句です。

出典　山口仲美『日本語の古典』

（注）立石寺…山形県にある大寺院。「山寺」は立石寺の通称。
碑…立石寺にある芭蕉の供養碑を指している。「せみ塚」のこと。
清閑幽邃…景色などが清らかで、奥深くものしずかなこと。
実地踏査…実際にその土地へ出向いて調査すること。
性相院…立石寺の支院（本寺に付属する寺院）。
開山堂…立石寺を開いた慈覚大師のお堂。
佳景寂寞…すばらしい景色がひっそりとしずまり返っていて。

① 立石寺の様子や、立石寺を訪れた筆者について説明したものとして最も適当なのは、**ア**～**エ**のうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア　立石寺は、深い森の奥にある木々に覆われた寺院であり、せみ塚のあたりにだけ大きな岩がある。
イ　筆者は、ツクツクボウシやミンミンゼミ、アブラゼミは、「閑さや」の句の蟬としてふさわしくないと感じた。
ウ　筆者は、せみ塚で涼んだあと、ハイヒールが足を締め付けるのに耐えて、奥の院までたどりついた。
エ　奥の院は、せみ塚から途中で左に曲がって、開山堂などの御堂を通り、鎖を使って這い上がっていった先にある。

② 『おくのほそ道』の文章構成の巧みさ」とあるが、筆者は立石寺の章段のどのような点に巧みさを感じていますか。次の文の［X］、［Y］に入れるのに適当なことばを文章中から［X］は八字、［Y］は九字で、抜き出して書きなさい。

奥の院への道のりを［X］で描き、「閑さや」の句を［Y］ことで、大きな効果をあげている点。

③ **A**・**B**・**C**の句についての筆者の解釈として最も適当なのは、**ア**～**エ**のうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア　**B**は、「石にしみつく」が蟬のうるさいくらい大きな鳴き声を感じさせるが、**A**は騒々しさを感じさせない。
イ　**B**は、「山寺」「石」の語がスケールの小さな句という印象を与えるが、**A**はスケールの大きい空間を感じさせる。
ウ　**C**は、「さびしさや」が味わいを出しているが、**A**ではその味わいをあえて消すことで静寂を強調している。
エ　**C**は、「しみ込む」が瞬時に消えてしまうような小さい蟬の声を連想させるが、**A**は蟬の声が際立っている。

④ 中学生のひかるさんは、この文章を読んで次のような感想文を書きました。［Ⅰ］、［Ⅱ］に入れるのに適当なことばを、［Ⅰ］は文章中から八字で抜き出して書き、［Ⅱ］は六字以上、十字以内で書きなさい。

> ただ文字の上で「閑さや」の句を味わっていたとき、筆者は、句の中の「蟬の声」を、［Ⅰ］と思っていたようですが、実際にその土地に立ってみると、「岩にしみ入」感じがするには、「チージー」と鳴く［Ⅱ］いないといけないことに気づきます。「紀行文は、その土地に自ら赴いてみた時に最も輝きを増す」と述べる筆者のように、私もいつか『おくのほそ道』の名所を訪れて、芭蕉の作品の輝きを感じてみたいです。

4　四人の中学生が、防災をテーマとするグループ学習で、【資料Ⅰ】～【資料Ⅲ】をもとに話し合いをした。次の【四人の中学生の話し合い】を読んで、①～④に答えなさい。

【四人の中学生の話し合い】

梨花　今日は防災について話し合うよ。日頃から備えておけば、いざというときに慌てなくて済むからね。

達也　【資料Ⅰ】は、２０１８年と２０２３年に私たちの住むＡ市で行われたアンケート結果をまとめたものだよ。この【資料Ⅰ】を見ると、［Ｘ］ことがわかるよ。そこから考えると、各家庭の防災対策には改善の余地がありそうだね。

麻美　何かあったときは、防災対策をしなくちゃって思うけれど、なかなかできないんだよね。

奏太　そうだね。では次に【資料Ⅱ】を見て。２０２３年の調査で防災対策をしていないと回答した人に、なぜしないのかを尋ねたものだよ。

達也　自分の周りは大丈夫だと考えていることが、対策をしないいちばんの理由なんだね。

梨花　そう思いたい気持ちもどこかにあるのかもしれないね。

奏太　次に多いのが、何をすればよいのかわからないから、という回答だね。

麻美　これからしようと思っている、機会がない、と答えた人も同じぐらいいるよ。私も同じ。つい先送りにしてしまうんだよね。どこから手をつけたらいいんだろう。

達也　まずはハザードマップを確認かな。自分の住む地域にどのような自然災害の危険性があるのかがわかるよ。

梨花　そうだね。私の家がある場所は川の氾濫の危険性があって表示される。だから、貴重品は二階で保管しているよ。

奏太　避難時に避けた方がよい道路もわかるよね。

麻美　なるほど、それは大事な情報だね。それから、防災用品も揃えないといけないよね。

梨花　全てをいっぺんに揃えようとしなくてもよいと思う。非常食としてリュックに入れっぱなしだと、いざというときに古くて食べられないとかもありそうだし。日頃から防災を意識した生活をして、日々新しくしてもよいのかも。

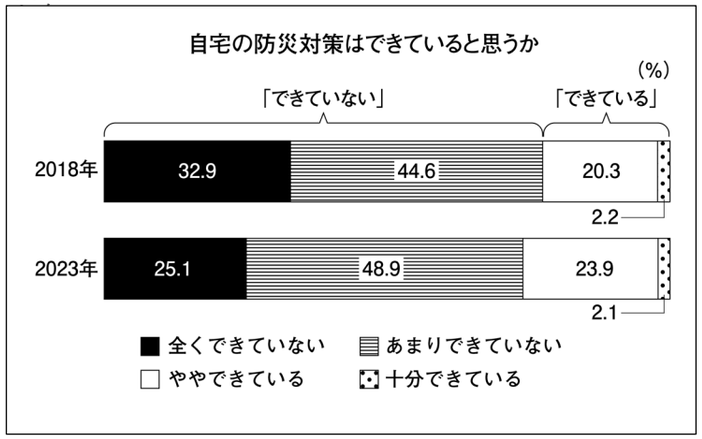
麻美　そういえば、祖母はいつも飲むペットボトルの水を、常に余分に買ってあるみたい。

奏太　そういうのが大事だよね。普段から使っているものであれば、自然に更新されていくからね。うちは父の趣味のキャンプ用品が防災用品を兼ねているかな。

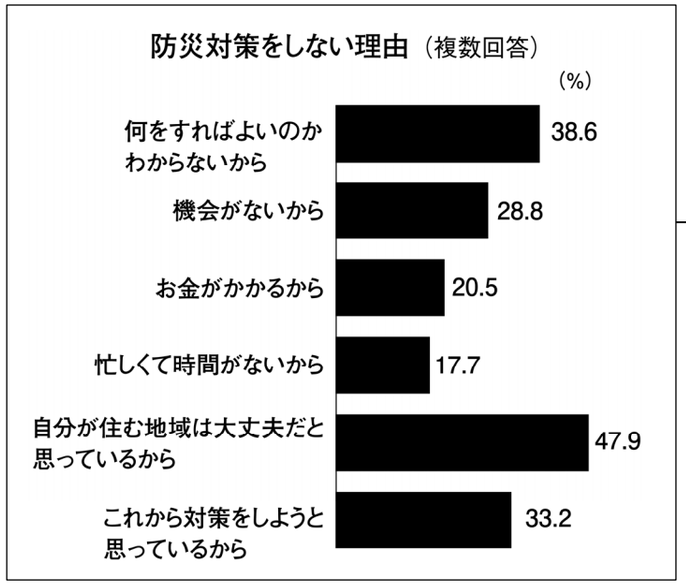
達也　防災対策はどのような危険に備えるかで、必要なものや対策が異なるよね。

梨花　【資料Ⅲ】を見て。主な自然災害が四つ挙げられているよ。私の家で対策が必要な災害は、【資料Ⅲ】の中では［Ｙ］かな。なぜなら、［Ｚ］

【資料Ⅰ】



【資料Ⅱ】



【資料Ⅲ】

我が家で防災対策が必要な災害

ア　地震
イ　洪水
ウ　台風
エ　土砂くずれ

①「非常食」とあるが、「非常食」と熟語の構成が同じなのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア　非常識　　イ　心技体　　ウ　不愛想　　エ　中学生

②　達也さんの意見が論理的なものとなるために、［Ｘ］に入れるのに最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア　この五年間で、防災対策が全くできていないと答えた人は減少したが、できていないという回答全体としての割合は増加している
イ　この五年間で、防災対策がややできている、十分できていると回答した人の合計は、３・５ポイント減少している
ウ　この五年間で、防災対策がややできていると答えた人よりも、あまりできていないと答えた人の方が、増え幅が大きい
エ　この五年間で、対策がややできている、十分できていると回答した人の割合はそれぞれわずかではあるが増加している

③　話し合いにおける四人の発言の特徴について説明したものとして適当なのは、ア～オのうちではどれですか。当てはまるものをすべて答えなさい。

ア　達也は、麻美の問題提起に対して他の人とは別の視点から意見を述べ、梨花が新しい資料を提示するきっかけを作っている。
イ　梨花は、麻美の疑問に対する達也の返答を受け、自分の経験をもとにそれをどう役立てるのかを具体的に説明している。
ウ　麻美は、示された資料について回答の心理を自分に引き寄せて推測し、その心理をふまえた対策を提示している。
エ　奏太は、他の人の発言に情報を補足したり、具体例を示したりすることでグループ全体の理解を深めている。
オ　梨花と奏太は、新たな資料を提示し、資料の内容を説明するとともにそれに対する自身の考えを伝えている。

④　梨花さんの発言の［Ｙ］、［Ｚ］に入れるのに適当な内容を、Ｙはあなたの家で対策が必要な自然災害を【資料Ⅲ】ア～エのうちから一つ選んで答え、Ｚは**条件**に従って六十字以上八十字以内で書きなさい。

条件
1　二文に分けて書き、一文目に、Ｙで選んだ自然災害に対して、なぜ対策が必要なのかを自分の家の事情に即して書くこと。
2　二文目に、一文目の理由をふまえ、具体的な対策を書くこと。